

平成 17 年度

石川県クラブマネジャー要請講習会(中級編)

開催日 平成 17 年 11 月 26 日(土)

開催会場 石川県生涯学習センター

第 3 回 「新町スポーツクラブを解剖する。」

【講義録】

新町スポーツクラブの活動 9:35～10:20

プレゼンター 小出 利一氏(新町スポーツクラブクラブマネジャー)

スポーツ少年団における人材育成のシステムについて

スポーツ少年年代に対する理解不足
スポーツ少年団の人材育成システム

- ・ 小学生だけの団体だと思われる
- ・ 小学校を卒業するときに卒団と思っている
- ・ 単一のスポーツをする団体だと思われる

スポーツ少年団の理念が理解されない理由

- ・ 指導者資格を取得するとき、しっかりと研修を受けていない?
指導者でなく、保護者が代理で受けているだけの場合もある
- ・ 各チーム単位に聞くと人数が減っている
お世話など保護者の負担が大きくなりすぎて、保護者がバーンアウトしている

今のままでスポーツ少年団が継続できるのか(10年・20年後)

- ・ 少子化で今後各単位団の子供が減少することが考えられる
- ・ 指導者として長期ビジョンを描けているか?
- ・ 次世代(中高生)のリーダー育成に変化がない?
中学生団員は部活動が忙しくて参加できない
- ・ このまま小学生だけの団体では継続できない
- ・ 本当の意味で地域に認知されているのか?
買った負けたで評価される、認知されるものではない

スポーツ少年団とは

- ・ JSC(ジュニア・スポーツ・クラブ)
ドイツはドイツ・スポーツ・ユーゲントと言う
- ・ 小学校1年生から19歳までが団員
20歳で認定の資格があたる
- ・ ジュニアリーダー シニアリーダー 有資格者指導者へと生涯スポーツの道筋が明確になっている
日独少年団交流へも参加している

総合型地域スポーツクラブにはスポーツ少年団が必要

- ・ 同じ理念で活動している組織として両者が助け合っていくべき
- ・ 単一型のスポーツ少年団も理念にそった活動していけば、発展しスポーツクラブにとって大切な各種目を担う存在になる

新町スポーツクラブの核

- ・ スポーツ少年団の理念を実践していたSVCスポーツ少年団が平成4年より活動

中高生の活用

- ・ 少年団活動の中で育てることができた
- ・ どの町にも若者はいる
- ・ 高校生が継続的に地域で活動するチャンスがない
- ・ ドイツへも派遣
言った成果を地域の後輩へ還元する仕組みがある

SVCスポーツ少年団(会員数 約100名)

- ・ スポーツ・イベント部
- ・ 指導者部
- ・ リーダー部
- ・ 保護者役員部(6名:総務的な役割)
- ・ 研修広報部
全保護者はどこかの部会に参加
お金は大人が出すが、企画・運営は高校生、大学生のリーダーが行う
絶対無理しない お互いボランティアだから、気楽に休めるようにしよう

新町スポーツクラブ

- ・ スポーツクラブをよく理解してスタートしたわけではなく、お金が先に来てしまった
- ・ 3年間の補助金交付が終わった後に継続するかどうするかの議論になった
- ・ SVCだけでもクラブができそうだったが全体で盛り上げていく道を選択
- ・ 中高生を核にしてクラブを育成していくことを考えた
- ・ 町内には高校がない

高校生の部活参加率は30%程度、残りの高校生にはスポーツをする機会がない
スポーツ環境の提供をしようと考えた

- ・ 中学部活動のレベルの低下
 - 指導者を週に一度派遣しクラブでやることになった
(中高生スポーツ部: サッカー、バレー、バスケ、ソフトで実施)
 - 小学生も一緒に参加したいという声が出た、中高生の活動の1時間前に活動することになった
 - 少年団の既存団があるにもかかわらず、新町スポーツクラブの活動にバスケ常時50名、バレー20名、サッカー15名 徐々に増えてきている
 - 既存団体で活動していたのは30%くらいの子供、残りの70%の子達が参加してきた
- ・ クラブで育った若者はスポーツユースボランティアになっている
- ・ 町がする行事は多くがスポーツユースボランティアに委託される
- ・ 新町サポーター: 保護者で組織

小学生も大学生もみんな同じ仲間

- ・ 悪い意味での体育会系の付き合いでない、人間関係の構築
- ・ 同じ会費を支払っているクラブ会員で先輩が後輩の面倒を見る教育
- ・ こどもにとって大事な異世代間交流

他町村との高校生、大学生世代の交流

小学生の様々な活動

トップアスリートの招聘

国際交流 ドイツとの相互派遣

クラブの課題

- ・ 高崎市との合併と新町スポーツクラブのNPO法人化
- ・ 体育館会議室をクラブ事務局にしようとしたが合併で暗礁に
- ・ 大人世代のプログラムをどうするか

未来の課題

- ・ 5年後の組織図を完成させる
- ・ 10年後のクラブ経営スタッフを今から明確に位置づける
- ・ 20年後に「マイ・クラブ」に

理念・理想・夢

- ・ ずっと住みたいといえる町
- ・ 真剣にスポーツをしても笑顔で
- ・ みんなが夢を追いかけてほしい

新町スポーツクラブを解剖する1 10:35～12:00

講師 奥田 睦子氏(金沢大学経済学部)

大人はスポーツを通じて子供たちに何を伝えるのか、何を伝えるべきなのか

アンケートの結果より

- ・ 礼儀作法を身につけることが地域の少年団に求められていることに驚いた
それは家庭ですることでもあるはずだ

スポーツの教育的価値

人間 = 生物学的存在としてのヒト 身体を機能させる喜び
= 人と人を結びつけ、関係しあう「間」を共有した社会的存在 他社との交流の喜び

スポーツ少年団(部活動)の意義と総合型地域スポーツクラブの意義

- ・ 活動をするのは子供だが、それを支えるのは保護者(地域住民)の組織
新町スポーツクラブで言うところの「新町サポーター」
- ・ 関係者が係わるだけでなくこどもを地域全体で育て、守っていく必要がある
- ・ 総合型の理念はもともと少年団にあったもの
- ・ 保護者(活動母集団)自体の活動も必要

スポーツ少年団自体の考え方、あり方自体が総合型になる

スポーツ少年団の指導者

- ・ 団指導者...団の運営を担当
- ・ 特技指導者...専門技術を指導する
- ・ 育成指導者...地域との協力・資金の確保などの条件整備をする

スポーツ少年団の意義

- ・ 生活と結びついた地域社会の中での少年・少女たちの集団による社会活動の場
- ・ スポーツがその原動力になる

学習指導要領の変化

- ・ 1989年週休二日制の導入による指導要領の改訂
部活動への参加を持ってクラブ活動を履修したものとみなす
部活動の全員加入を導入
- ・ 2002年より中学校、高校のクラブ活動が完全に廃止
部活動への全員加入の必要がなくなった
- ・ クラブ活動 = 授業(正課)の一環
- ・ 部活動 = 課外活動

- ・ 部活動参加率の低下
- ・ 運動欲求の低下 = 部活動参加率の低下ではない
部活動の存在意義は何か？

スポーツ少年団、部活動が現在どんな課題を抱えているのか？

現状 理想 問題点 問題の背景 理想に近づくための手立て

新町スポーツクラブ、問題解決のための工夫

- ・ トップアスリート参加の機会をうまく使う
トップの指導者が「他のスポーツもしよう」といったらすごい影響力がある

スポーツ少年団の多くの人が理念の理解をしていない

変わってほしいと思ってもなかなか変わってくれない、

してやっているという上からの目線がある

どうやったら変わってもらえるのか

スポーツ少年団や体協の裏側には行政があって困らないことに原因があるのではないか

本当は行政に助けられているのに自分たちでやれているという意識がある

つぶれてはじめてわかる

SVCもつぶれそうになった、だめになってはじめてわかる

クラブが少年団を食ってしまえばいい

EX) 成岩スポーツクラブができたことで少年団がつぶれた、ではなく少年団がよくないからクラブにとられた
理念がわかっていないから、リニューアルの仕方がわからない

スポーツ少年団の理念、やり方をうまく盗んで取り入れたらいい

指導者不足

- ・ スポーツ少年団にはちゃんと指導者を育てるシステムがある
- ・ 下が育つシステムを喜ぶべき
- ・ いつまでも変なプライドを持っている

会費は還元するものではなく、クラブ運営に使うもの

中高生しか出れないもの、小学生しか出れないものがある

いろんな人がいろんな活動に参加することで中身がわかってくる

中身を明らかにする

他のスポーツをさせることで、全体として子供のパイの枠が広がった

まとめ

- ・ 将来を想定できているかいらないか
- ・ どんな指導者を育てていくか、どんな人材がクラブに必要なかを考える必要がある

- ・ 地域に戻ることができるシステム
- ・ 小学生の世代から考えていく
- ・ スポーツ少年団を出発点とした総合型地域スポーツクラブ
- ・ 地域ぐるみでの活動が、徐々に根付いていく、結果は後からついてくるもの

新町スポーツクラブを解剖する2

講師 南木 恵一氏(富山県広域スポーツセンター クラブマネジャー)

職能制組織

事業部制組織

マトリックス組織

一般的な総合型クラブ

- ・ 職能別組織

SVCスポーツクラブ 職能別組織

新町スポーツクラブ 事業部制組織

組織の成立条件

- ・ コミュニケーションできる
- ・ 貢献意欲
- ・ 共通目的の達成を目指す

組織マネジメント

- ・ メンバー間のコミュニケーション
- ・ 貢献意欲を高める 動機付け
- ・ 共通目的(組織目標)を持つ
 - 何度も繰り返して原点に戻ることが必要
 - 会議に来られなくなる人がいる
 - 連絡網
 - 仕事が忙しくなった人にも情報を流し続けることを惜しまない
 - 戻りやすい環境づくりを

組織構造は戦略に従う

- ・ 環境の定義 組織の目的を明確に
- ・ 経営戦略の策定 どんな事業をするのか
- ・ 組織デザイン 最適な組織構造は何か

クラブの方向性

- ・ ミッション
- ・ ビジョン 中長期計画 3年～5年（時代の変化に応じて変えていく必要がある）
子供の環境はどう変化するか、将来はどうなるのか
将来のデータをみる EX)現在の年少人口 = 3年後の小学1年生人口

指定管理者にクラブがなること

指定管理者とクラブが良好な関係を築くこと

指定管理者は3年契約程度、次回の入札のときにどうやって対応するかを見据えておく

おやべスポーツクラブ

- ・ プロジェクト制
ある一定期間だけ組織を作る EX)NPO法人検討委員会(3ヶ月間の期間限定)

民主的な会議

- ・ 意欲が低くなる会議
声の大きい人の意見が通る
一方的な報告ばかり
一部の人だけで勝手に議事が進行
何を決めるべきかはっきりしていない
項目の横に時間設定をする、時間が来たら次回へ保留
出席者に事前に要項、資料を送る(メール等で配信)
- ・ 有意義な会議
みんなの意見で合意を得る
みんなで話し合っただけという実感がある
次の課題がはっきりしている
権限委譲
思いを語る場面と決定をする会議を分けること

クラブの課題と将来の展望

- ・ 課題はマイナス要因ではない プラス要因
課題をクリアするために何をすべきか
課題クリアでクラブの飛躍に

スポーツにおける原価意識をもってもらう

受益者負担の理解

新町スポーツクラブを解剖する3

講師 藤井 誠氏(IEC:国際理解情報センター 代表)

行政とのかかわりとクラブとのパートナー体制の構築

行政 企業 家庭の役割分担による戦後復興、高度経済成長

地域スポーツも行政が担ってきた

行政 施設(ハコモノ行政) 財団、社団、公社による管理
現在はコストカットばかりに着目 指定管理者制度の導入
運用が考えられていない

学校体育:部活動

社会体育:社会体育団体(財団、社団、公社)

カネの問題 社会体育にお金がつかなくなった、補助金のカット

お金の切れ目は縁の切れ目

その補完システムとして生まれたのがスポーツクラブ(受益者負担、事業者、各種団体が会費を払って参加)

事業者となるのは:NPO、NPO法人、任意団体

草の根的な活動をしている団体は往々にして行政、財団等といい関係が作れない

A:行政主導のクラブ

クラブができて事務局は行政内
理念がいきわたらない
行政からの支援がなくなると消滅してしまう

B:草の根的なクラブ

クラブがうまくいくときは中心人物が「うまく」やるとき
新しいビジネスにとらわれがち
会費への理解を得づらい、ねたみ、ひがみが生まれる

C:既存団体(自主的サークル)がネットワーキングによってクラブを育成

自分たちの活動が第一
上下関係にこだわる
関係が硬直化する可能性が高い

だめになってはじめてわかる

- ・ 現在は過渡期
- ・ やるか、やらないか 食うか、食われるか

地域活動の3要素

- ・ 実績
 - ・ 信頼
 - ・ ステイタス
- 忍耐も必要
力がある

調整能力、行動力、冷静さを持ち合わせたマンパワーの必要性

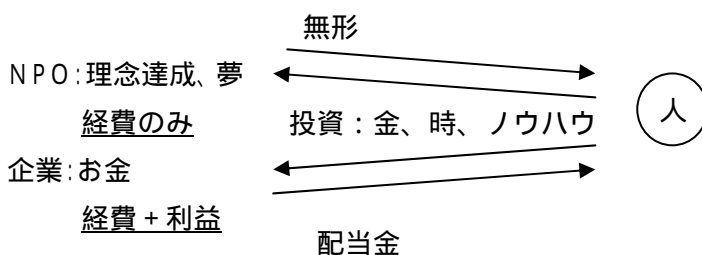
機: タイミングの重要性

行動することの重要性 アクション!

誰がやるの? 自分がやる

NPOマネジメントのポイントとノウハウ

なぜNPOなのか?



ヒト

- ・ 活動する人(指導員 夢、人を育てる仕組みがあるか、キャリアアップができるのか
ペイしてもらうためのサービス提供ができないといけない
実績を積んでキャリアアップを
- ・ 応援する人(モノ、カネ、情報のそれぞれで応援)
応援してもらう目的がはっきりしないとダメ
応援してもらうためには明確なビジョン、理念がないとダメ
- ・ 参加する人

モノ

- ・ 拠点(場所)
- ・ 機材
- ・ 教材
- ・ プログラム

カネ

- ・ 会費(支払う対価としてのサービスが必要)
- ・ 寄付金(見返りはそれほど期待しない)
- ・ 助成金(助けてください 計画が必要)
助成金の研究が必要(対象は? 誰が? 担当者は? 目的は? 種類は?)
- ・ 補助金
- ・ 収益金(参加費:事業収益、物販)
- ・ 委託金(計画 実行 承認 支払い)
それぞれがどういう性格でどういう使い方をすべきかを知っておかないといけない
もらったお金を還元しなくてはならない、有効活用しなければいけない

情報

- ・ 収集(短期間に、すばやく、たくさん、質のよいものを、効率的に、タダで)
- ・ 加工(印刷媒体:ポスター、チラシ、電子媒体:メール、HP、記事媒体:広報誌、新聞、メディア)
- ・ 発信(短期間に、すばやく、たくさん、質のよいものを、効率的に、タダで)

まかせる工夫を

お願い お礼 報告(成果の共有) 主体的協力

頭でっかちにならず、いろんなことをしてみる

経験、体験をしてはじめて自分の行動を分析できる